

市民エキストラ通信

発行：和歌山市まちづくり推進室 観光課 発行日：平成17年3月15日
〒640-8511 和歌山市七番丁23番地
TEL：073-435-1234 FAX：073-435-1263
E-mail em02030@city.wakayama.wakayama.jp
http://www.hall.city.wakayama.wakayama.jp/fc/index.htm

VOL.2

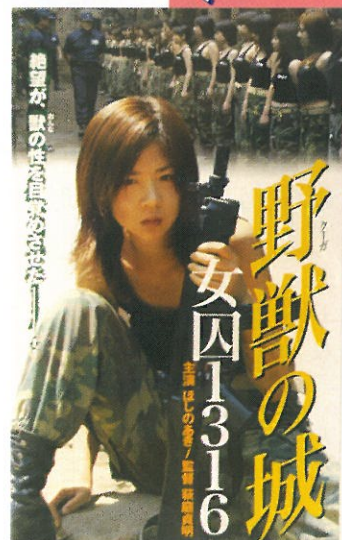
絶海の孤島という設定で物語の舞台となった友ヶ島



あの「ミナミの帝王」シリーズを撮った
萩庭監督作品が
友ヶ島で撮影!

昨年四月に友ヶ島で撮影が行われたのは、「ミナミの帝王」シリーズの監督として知られる萩庭貞明監督作品。行楽シーズンには、アウトドアを楽しむ人などで賑わう友ヶ島が、国の極秘施設という設定で撮影され、なじみのある風景が、違った一面をのぞかせました。この映画では、市民エキストラ出演の依頼もあり、実際二名の市民エキストラが出演されました。

「これが、本当にあの太陽いっぱい友ヶ島!」と思わせるような迫真の雰囲気をも出したこの作品は、友ヶ島の魅力の多さを改めて痛感させられる作品です。



ロケにいい場所知ませんか?

いわゆる観光名所と言われるような場所でもなく、当たり前な風景なんだけど、なんだかすごくお気に入りの場所。そんな場所を知りませんか? ロケには、意外とそんな場所がいいみたいです。

あなたのおすすめスポットを写真にしてお送りください。

和歌山市のフィルムコミッション事業のHPへ投稿!
<http://www.hall.city.wakayama.wakayama.jp/fc/index.htm>
⇒「写真 作品の募集」というところをクリック!
和歌山市観光課へ直接郵送!
⇒〒640-8511 和歌山市七番丁23 和歌山市役所内
まちづくり推進室 観光課 「FC担当」まで

※なお、応募頂いた写真は返却しません。また、和歌山市は、応募頂いた作品について、市の広告・宣伝等を目的とした媒体に掲載するなど、自由に使用させていただけるものとします。



- 左下から時計回りに:
- マリナーの橋 (後藤章仁さん撮影)
 - 加太 (中芝晴美さん撮影)
 - 片男波から和歌浦旅館街 (井上秋男さん撮影)
 - 紀伊風土記の丘 (湯峰右門さん撮影)
 - 城と桜 (野島満さん撮影)
 - つきじ横丁 (匿名希望さん撮影)
 - 紀ノ川堤防 (大谷浩彦さん撮影)

シネマ映画な人

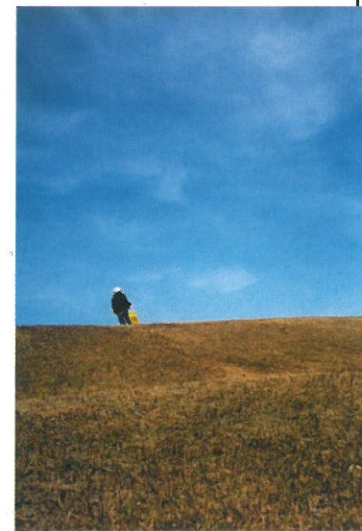


齋藤 忠男 (さいとう ただお)

インドア・アウトドアの区別なく好奇心いっぱいのナイスミドル。20数年に渡り、「和歌山キネマ倶楽部」の活動を支えている。わかやま市民映画祭実行委員長。和歌山キネマ倶楽部代表。

ご存じですか? わかやま市民映画祭

6月25日に和歌山市民会館で開催されます「わかやま市民映画祭」は、今年で第22回を迎えます。これまでに出席された方々をご存じですか? 監督では山田洋次、降旗康男、故・深作欣二、神山征二郎、栗山富夫の各氏。そして俳優では吉永小百合、宮本信子、渡辺えり子、三國連太郎、田中邦衛、津川雅彦、松方弘樹、役所広司、小林稔侍の各氏といったそうそうたるメンバーが授賞式に参加されているのです。しかもほとんどノーギャラで! こんなとんでもないことが22年間も続いているのです。吉永小百合さんは「危機的な状況にある日本映画を応援しようと頑張っておられる皆様方の気持ちに応えたいという一念で参加させて頂きました。」とおっしゃって下さいました。他の方々もほとんど同じような主旨の言葉で励ましていただけました。いつまで続けられるかわかりませんが、何とか頑張っていこうと思っています。皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



ロケに参加して・・・



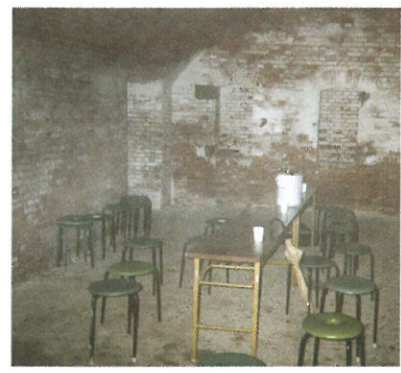
演技指導に熱心に耳を傾ける池田さん(左端)

企画イメージに合う「風呂場」提案をしてみましたが残念ながらボツに・・・



●ロケに参加して
「ロケ地は友ヶ島」これが私の参加理由。5年前和歌山に越してきて、まだ一度も行く機会が無かった友ヶ島に是非渡ってみたいその一心で、会社に無理言っ取った有休でした。私に与えられた1日限りのコードネームは「3301」番。ロケは朝早くから日没後真っ暗になっても続き、一日中走り回り大声で叫び、腕立伏せをし小さな虫がウロウロする苔の上に寝転がり、喧嘩をはやし立て無差別に取っ組み合うこの日経験した全てが久々の事ばかり、そんな元気な生き方は近頃すっかり忘れていました。でも真っ黒に焼けた肩が4月半ばのまだ冷たい夜風に晒されて、充実感は格別です。翌日は案の定全身筋肉痛でしたが、驚いたのはそれがノドにまで及んでいた事。きつと叫ぶ筋肉を酷使したからですね。監督の演技指導の的確さには感心し納得するばかりです。「確かにそう動く方が、よりそれらしく見える！」と。素人とはいえ自分の演技力や語彙力の低さに改め

て情けなくなりました。それに引き替え、演じ手が演じやすい様に、安全で怪我の無い様にその場で振付けをどんどんアレンジしていく殺陣師、そしてそれを次々と理解し即座に伝えていく出演者、プロの技術は圧巻です。「エキストラだし撮影を間近で見学でき少しだけでも映ればラッキー」だった最初の私は、現場に入るとどんな欲が出て、帰る頃には「映らない所でももつ」といい演技がしたい。陰からでも作り手の一員としてこの作品を支えたい」という欲にすっかり支配されていました。懐かしい思い出とともに新たな自分にも出会え、参加できて本当によかったです。ありがとうございました。池田 亜希子



市民エキストラも大活躍！



ファインダーをのぞきながら入念にチェックが行われる



雨の中では待ち時間もツライ!?

●市民エキストラも大活躍
今回の「クーガの城」も制作者から市民エキストラ派遣の依頼があったのは、撮影の一週間前。十八歳〜三十歳くらいの女性を三十人という希望で、撮影は深夜に及ぶこともあり、衣装はタンクトップにアーミーパンツ。という厳しい内容でした。当時エキストラに登録して頂いていた方の中に、年齢と性別の該当者は六十八人。とりあえず、ファックス、携帯メール、パソコンメールでその全員に制作者からの希望と撮影日等を連絡し、参加いただける方からのお返事を待ちました。制作者からも「人数が集まらなければ、足りない分をプロのエキストラ(劇団に所属している人たち)を早急に手配しないとイケない。早く返事を下さい。」と言われ、最終的に参加していただけたのは、二名。三面で、参加された市民エキストラの方から寄せられた感想を紹介します。

●ロケ地探し
制作者の方からもうひとつ受けた依頼は、撮影に使う「訓練所の風呂場」「訓練所の所長室」の企画イメージにあったロケ場所探しでした。撮影を許可してくれそうところまで、イメージに合うところまで、とりあえず思いつくところをいくつか訪ね、現場との交渉を経て、制作者の方と下見に回りました。紆余曲折ありましたが、結局、前述二件のロケは和歌山市以外の場所で行われることになりました。



(朝日新聞 平成16年5月31日夕刊)

ロケ地ツアーが大ブレイク!

「冬のソナタ」「世界の中心で、愛をさけぶ」が、「冬ソナ」「セカチュー」という流行語を生み出すほどのヒットとなり、それに伴い「ロケ地ツアー」なるものが登場した。特に「冬のソナタ」(韓国名のタイトルは『冬の恋歌』というらしい。)のロケ地を訪れるツアーは爆発的な人気で、二〇〇四年上半期(一月〜六月)に韓国を訪れた日本人観光客は、六十三万八千人で、昨年の同時期に比べて約二十八・六%も増加した。さらにいうと、「冬のソナタ」がNHKの地上波で放送されてからの五月、六月の二ヶ月間をとってみると昨年同時期の約二倍以上になるという。(韓国観光公社) 一方、片岡恭一氏のミリオンセラー小説「世界の中心で、愛をさけぶ」が映画化され、興行収入八十五億円ともいえる大ヒット作となった。主人公のカップルが防波堤で夕日をみつめるシーンなどが撮影された香川県庵治町の防波堤には、県外からも多くのカップルが訪れ作中の主人公とダブルさせる(!?)光景が見られ

た。ふだんは釣り客しかないような、何の変哲もない防波堤が、一変観光スポットとなったという、まさに多くのフィルムコミッションが理想とする典型的な例だ。町では、ロケ地ガイドマップを作成し、訪れた観光客の受け入れ態勢を整えている。 また、「京鹿子娘道成寺」がテーマとなった牧瀬里穂主演「娘道成寺」蛇炎の恋」にまつわるイベントとして、昨年十月には戦国時代以来四二〇年ぶりに道成寺の釣鐘が京都妙満寺から里帰りするイベントが実施された。川辺町道成寺で催された同イベントには、歌舞伎役者の中村富十郎さん、女優の牧瀬里穂さんも参加されたほか、歌舞伎役者の中村福助さんによる奉納演舞もあり、県外からのバスツアーも企画されていた。 ロケ地ツアーが大ブレイクした二〇〇四年だったが、ロケ地ツアーだけでなく、今後映像を通してさまざまな地域で活性化を図ることができる。という可能性を感じた一年だった。

